

テヌート 炭酸ガス局所施用 秋作ミニトマトで増収増益



CO₂局所施用コントローラー「プレス」



島根県農業技術センターの試験ハウス

テヌート（藤原慶太社）が普及しているCO₂局所施用コントローラー「プレス」は、島根県美郷町が実施するハウスに

おける秋採りミニトマト栽培の実証実験に採用され、その増収効果が確認されている。島根県農業技術センターでは、さら

に経済性評価を行い10aあたり25万円の増収効果があることが分かった。同センターでは平成31年4月から令和4年3月までの計画で「ミニトマトの炭酸ガス局所施用と環境複合制御技術の確立」を課題としたスマート農業の実証・普及に取り組んでいる。美郷町を含む県内の中山間地域は、ミニトマトの生産が盛んに行われているが平均反収が3t前後と他県平均より低い状況にある。このため計画では、

プレスで炭酸ガス（Air）の株元施用を行い、平均反収を2倍の7tに増やし、美郷町認定農業者の所得目標400万円を超える経営を達成するといふもの。

美郷町では、平成30年度に1.4haのリースハウスが建築され、ミニトマト等の生産を行っている。今回の実証ほ場である農事組合法人ファームむらじの経営面積は水稲10ha、ミニトマト10a、ナス5a。リースハウスを使用したミニトマト栽培では、これまでの夏秋栽培（5月定植、6〜10月収穫）から年2期作（春作と秋作）が推奨され、ファームむらじでも2期作を導入。秋作については無処理区との比較で26%の増収効果が認められた。

秋作での炭酸ガス局所施用の導入により、10a当たり約83万円の収入の増加があり、経費としては、システムの減価償却費、施用する液化炭酸ガスによる燃料費の増加、その他、大幅な収量増に伴う人件費（主に収穫作業）で約58万円。差し引き純利益は25万円の増収効果が見られた。

経費に占める割合が高い炭酸ガス代は、次年度は安くなる見込みであり、炭酸ガスに圧縮空気（Air）を混用する技術も開発されていることから「さらに純利益は大幅に増える」としている。